



NAVI フルーレ・USA キャンプ及び現地試合参戦 報告書
USA 「November North American Cup (NAC), Kansas City」

報告者 遠藤 真、真田 昌浩、ディローズ京子

1. 派遣先 USA (米国)
2. 派遣期間 平成30年11月5日 (月) ～11月14日 (水)
3. 練習場所
前半；サンフランシスコ滞在時
Massialas Foundation MTEAM Fencing
後半；カンザスシティ滞在時
Heartland Fencing Academy
4. 出場大会
全米選手権 November North American Cup (NAC), Kansas City
試合会場 Kansas City Convention Center
5. 派遣選手名 (全国中学生フェンシング選手権大会上位入賞者)

		氏名	所属
	男子	橋本 祥英	立教新座中学校
		河村 一摩	はしまモア
		安井 琥珀	法政大学第二中学校
		浦部 光	立教新座中学校
	女子	山田 ひなた	中京大学J r.
		稲田 棕	和東ジュニアクラブ
		桐木平 陽菜	鹿児島J r. フェンシングクラブ
		中出 陽愛	はしまモア

6. 引率 団長：遠藤 真、コーチ：真田 昌浩、通訳/コーチ：ディローズ京子

7. 日程など

日程表

日付	時間 (現地)	
11月5日 (月)	14:00	羽田空港集合
	16:25	羽田発 UA876
	8:40	サンフランシスコ国際空港 (SFO)
	現地練習	Massialas Foundation MTEAM Fencing
6日 (火) ～7日 (水)	現地練習	Massialas Foundation MTEAM Fencing
8日 (木) 移動日	8:40	UA5256 でサンフランシスコ発
	14:27	カンザス着 (米国内時差修正) ホテルにチェックイン後、会場で武器検査と練習
9日 (金)	Y14 男子試合 午後	Heartland で練習、練習後夕食
10日 (土)	ジュニア男女	試合及び会場で練習
11日 (日)	カデ女子試合	試合及び会場で練習
12日 (月)	カデ男子、Y14 女子	試合及び会場で練習 夜：荷物のまとめ
13日 (火)	7:01	UA5694 カンザス発でサンフランへ
	10:35	UA875 サンフランシスコ発 羽田へ
	14日 14:45	羽田着 解散

8, 宿泊

【サンフランシスコ】

Hotel Whitcomb

1231 Market Street, San Francisco, CA 94103

【カンザス】

The Courtyard hotel, Kansas City Marriott

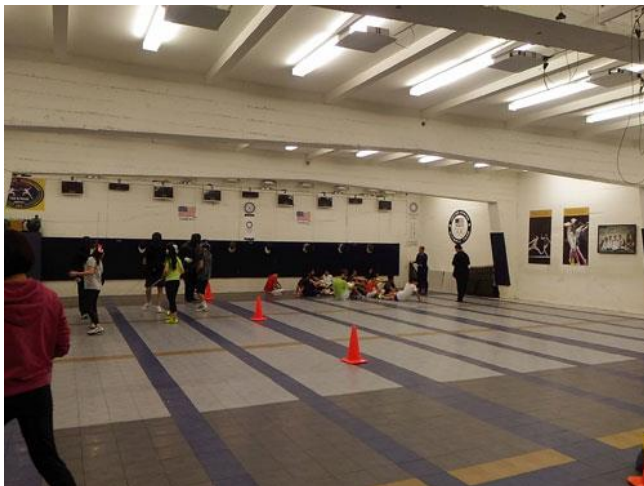
1535 Baltimore Avenue, Kansas City, Missouri

9, 試合結果

男子参加クラス→	Y14 132名	Cadet 249名	Junior 329名
橋本 祥英	—	42	74
河村 一摩	—	44	98
安井 琥珀	71	218	259
浦部 光	—	142	190
女子参加クラス→	Y14 131名	Cadet 225名	Junior 231名
山田 ひなた	31	14	55
桐木平 陽菜	42	155	—
稲田 椋	35	157	—
中出 陽愛	73	96	70

10, 海外キャンプについて

- * 海外キャンプの練習場は、前半はサンフランシスコの Massialas Foundation MTEAM Fencing で行った。ご存知の方も多いと思うが、世界的に活躍中の Massialas 兄妹のご両親が運営するクラブである。現地選手や保護者様と交流をもち、USA 上位選手が多数いる中で大変有意義な練習が出来た。

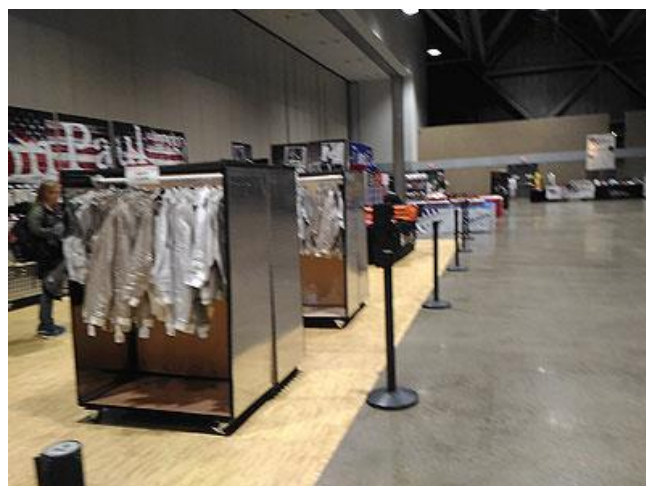
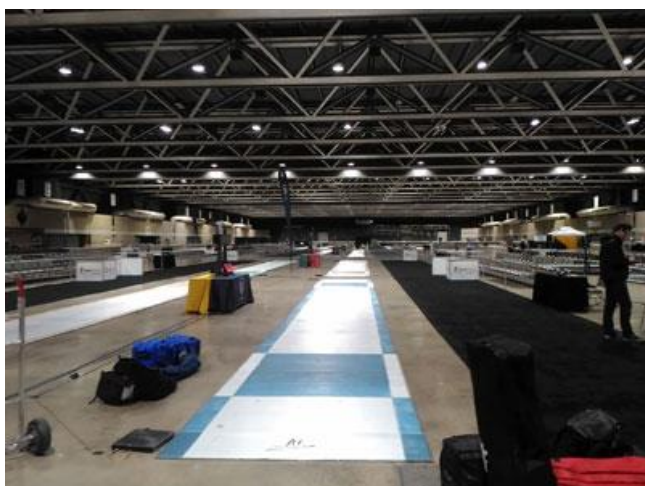


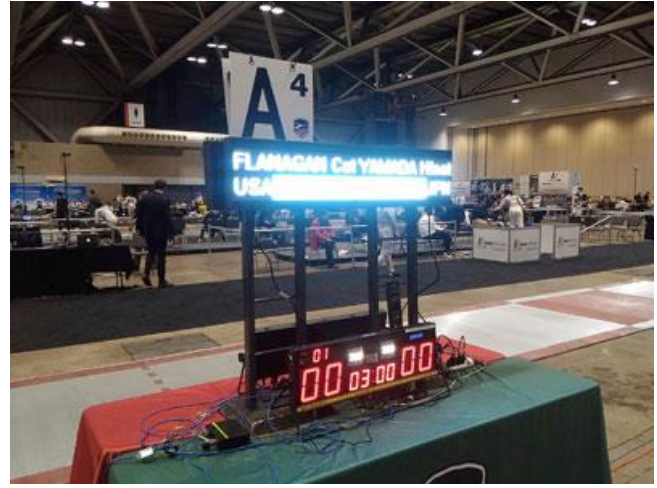
* 後半はカンザスシティに移動し、現地のクラブである Heartland Fencing Academy で練習を行った。こちらの施設も、Massialas Foundation と同様に立派な施設であり、現地選手と共に有意義な練習が出来た。



10、試合参加について

これまでの遠征はヨーロッパやアジアが多かったが、成長著しい米国の全国大会である NAC に参加した。FIE の国際大会では無いので、ヨーロッパやアジア諸国からの参加は少ないものの、全米からランキング上位の猛者が多数参加する大会である。案の定、予選プールから楽な相手は殆ど無く、気の抜けない試合ばかりであった。





11, まとめ

数年前に個人的に参加した際に感じた「素晴らしい大会」との印象は、今回の参加で確信に変わりました。様々な人種、世界各国から集まっている優秀な指導者、各地の立派な練習場、毎週の様にある大小様々な大会。米国は非常に恵まれた環境にあると言えます。

当時感じた、「様々な人種による、様々な指導者の、個性的なフェンシング」に、「勝つための最新のテクニック」というエッセンスを加えた、非常に興味深い、練習および大会でした。

前半の合宿で、米国の選手達の洗礼を浴びたものの、試合までにかかなりのレベルまで対応しつつあったと思います。実際の試合で、大きな差を感じたのは「気持ち」であった様に思います。米国の選手の多くは、相手にリードされた時にも「強い気持ち」で試合に臨んでおり、日本の選手は逆転負けをするケースが目立ちました。

また、テクニックの面では、ルールに違反しないギリギリの技を駆使しており、多くの米国選手が同じ方向性を向いておりました。もちろん、上位選手は非常に上手い事も事実です。

今回の日本代表の選手たちには、上位入賞をさせてあげられませんでした。今回の日本代表の選手たちには、上位入賞者はいませんが、全員がベスト尽くし戦い、初出場でアメリカのクラス別ランキングに数名の選手は入ることができました。

米国フェンシング協会 (USFA) では、各公式大会での成績によりポイントが加算され、“Rating”と呼ばれるランキングが与えられます。今回の大会参加成績により、年齢的に上のカテゴリーに於いても立派な“Rating”を獲得できた事は賞賛に値すると思います。

「個人的にでも、また参加してリベンジしたい！」と、全ての日本選手が感じていることと思います。

最後に。

チーム Japan としての参加により、試合会場で非常に多くの関係者から声を掛けていただきました。今後多くの輪が広がる事と思います。

今回の参加選手も全員がフェンシング競技に対する意欲と向上心があり、練習から試合までの期間中、大変有意義な遠征となりました。

期間中、大きな怪我や、体調不良を起こすことも無く無事に帰国できました。

規律、自己管理もしっかりとしており、日本代表としての立ち振る舞いや自覚も育ちつつあると思われます。

最後に、多くの関係各位のご協力により、滞りなく終了できたことをご報告申し上げます。

以上
2018年11月21日